

# 園長だより NO.86

寒波に震えた日々から暖かさが心地よく感じる日々が続くようになりました。

3月に入り、年度の最終月、一年のまとめの時期と言ったものの総仕上げ、集大成とは程遠い生活です。子ども達にとっては毎日、たくさん遊んでいけば、おのずと身も心もすくすくと成長していくものです。

## 主体性を育む

保育の現場で主体性（主体）という言葉はよく使われる。学校教育でもよく耳にする言葉ではあるが日常生活ではあまり使われない。大人になればそれぞれが生活を営むために目的を持ち自分の意思で何事も行動できるようになっている。それぞれが主体的に動いているということになる。

ただ小さい頃は自分で判断し行動できるようになる過程にある。幼少期においては周囲の大人に受容されながらまた友達（仲間）との活動において自分が自分らしく生きていけることを経験していきます。

先週末、市川の市民団体が主催した「子ども会議」という映画の上映会に行った。オンラインで観る予定をつい忘れ、情報を検索していたところヒットし予約をいれ参加した。「子ども会議」って何だろう？団体の案内には以下のことがアナウンスされ



ていました。

この映画は子どもたちが「会議」する保育園を1年間撮影したドキュメンタリーです。

自分の意見を言うこと、相手の意見を聴くこと、対話すること、小さな頃から日常の中でのこんな経験が、自分の頭で考え理解して行動する力になっていくのではないのでしょうか・・・

日頃から私もよく言っていること、口が酸っぱくなる程、現場にも投げかけている思いです。

映画の舞台は東京郊外、保育園での「会議」（子どもを中心に据えた話し合い）を丁寧に記録したものです。

会議は年長の子ども達と主に担任が参加、クラス全員ではなく5～6名ほどがその日の「テーマ」にそい、進行役の保育士がそれぞれの思いをつなげ対話をすすめてく形式をとっています。

会議のテーマは

雨 ・嫌なこと ・けんか ・卒園  
・心臓がとまると ・結婚して子どもがほしいですか など その時々で

テーマが決められ対話が進んでいきます。

子どもの内面にわいてきた、気づき、発見、思い、時に大人では考えられないような発想と純粹無垢な感性、言葉で表現し伝えることの大切さ、そして周囲の人はしっかり聞くことの大切さを再認識する機会を与えるてくれる映画でした。



## 主体性の源は

気づき・考え・伝えることは主体性の源と考える。

もし気づかない、考えない、伝えないとすると ・何事も起こらない、変化しない。

子ども達は感受性豊か、大人では感じないものを敏感に感じることもある。思ったことをすぐに言葉にできる子もいれば、表現までに時間がかかる子もいる。どの子にも感じたことや思いを表現し言葉で伝えてもらおうと願うならば、しっかりと応答できる（対話できる）時間や空間に加え仲間との対話ができる雰囲気や関係性が必要とされる。

大人が主になり伝達する、時には指示する、大人のプランで子どもたちの賛否を問うものとは格段と異なり、しつかりと環境を整えなければならぬと考えている。

特におおぞらでは できるだけ子ども達の「やりたい、やってみたい」を実現したいと考えている。 そのようなことを考えて実践しようと日々取り組んでいるのだから「気づき 考え 伝えられる」場面を大切に作る日常を作らなくてはなりません。

## 劇の取り組みから

先般行われた 3・4歳児の劇の会（劇遊びの会）も 大人の決めた内容をしくしくと教え込むのではなく、 純粹に子どもたちが感じたこと・考えたことを反映させ取り組んできました。

取り組みの中では「どうしたらいいかな？」

2023.3.3

「どんなやり取りにしようかな？」

「どんな道具をつくろうかな？」

「登場するおじいさんはどんな人かな？」

取り組みの中で子どもなりに感じたこと発見したことを 伝え合い、活動に結び付けていました。

言いつばなしではなく、言葉で伝えたことを行動してみる → それで「どうだったかな」→ また 考えて伝える →行動する。それぞれの思いが伝えあいの中で共有されていく姿がみられていきます。「みんなの問題、みんなの課題」となりそれが子ども達の思った方向へ進むと楽しさも倍増する。

時に話し合いや伝え合いは良いことばかりではなく、衝突もある。「みんなで決めたのにふざけた(´;w;`)」 「いつも〇〇ちゃんがやってしまう」 など 不満から「みんなの問題」になり話し合い、実際の取り組み（行動）に反映されることもある。

## 大切にしたいこと

- ・保育者や周囲の大人が子ども達を受け入れ（受け止め）安心できる人（場所）であること。
  - ・保育者との信頼関係があり仲間との生活に「居場所」があること。
  - ・その子らしさを周りが「認めて」あげること
- 映画「子ども会議」を観て子どもの思いが表現され、受け止められる環境の大切さを再認識しました。

（おおぞら保育園 園長 廣部信隆）